


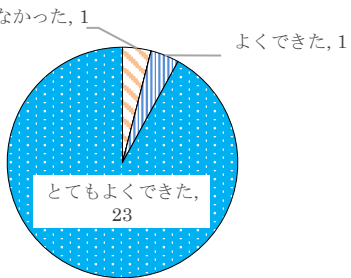
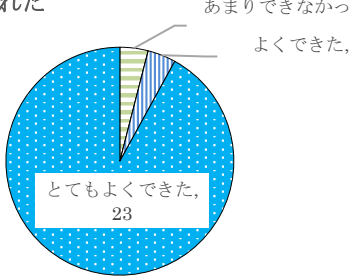
自殺予防教育プログラム実施報告書

学校名	厚沢部町立厚沢部中学校
-----	-------------

(1) 教職員間の共通理解を図る研修等の実施

研修等の実施日	令和5年7月26日(水)	研修参加人数	14人
研修内容	<ul style="list-style-type: none"> 「児童生徒の自殺を予防するためのプログラム」の配付と実践編「3種類の「プログラム」」の内容紹介 教職員向け資料「自殺予防教育の実施に向けて」の配付と概要の説明 		
研修に参加した教職員の声	<ul style="list-style-type: none"> 小中高生の年間自殺者数が300人を超えているという事実にショックを受けました。また、その原因として、「家庭問題」や「学校問題」があるということから、組織的に予防教育に取り組む必要性を感じました。 自殺予防教育プログラムも含めて、包括的に心のケアをしていく取組も重要な要素であると感じました。 		
研修等で使用した資料名	<ul style="list-style-type: none"> 「児童生徒の自殺を予防するためのプログラム」 教職員向け資料「自殺予防教育の実施に向けて」 		

(2) 「自殺予防教育プログラム」の実施

	実施状況（主な実施内容、アセスメントツール等による生徒の変容、生徒の感想等）	
A 援助希求的態 度の育成	<p>○ 実践の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 自他を思いやる心情を養うため、全学年の道徳科において「生命の尊さ」の内容項目において、日頃から生命の誕生に関わっている助産師の方を講師として招き、専門的な内容を踏まえた発問を生徒に投げかけていただくことで、生命の連続性や有限性、社会的関係性等の視点から、多角的・多面的に生命の尊さについて学ぶ活動を行った。  <p>○ 生徒の変容を促す工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の命を大切にしようとする実践意欲を育てるため、事例をもとに、自らを当事者の立場に置き換えて、「どのように行動するか」について複数の立場に立った場合の行動について考えるとともに、生徒同士で意見を交流する場面を設定した。また、「現実ではどうなったか」を説明し、自身の考えと比較させるなど、理解が深まるような機会を設定した。 <p>○ 生徒の変容</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分は一人で生きているのではなく、周りに支えられて生きているという考えに立ち、感謝と周りへの配慮を意識できるよう指導したことで、互いを尊重し様々な視点で考えようとする姿勢が見られるようになった。 思いやりの心を醸成することで、他者を理解し、コミュニケーションを通じて、仲間と助け合いながら問題を解決できるようになってきた。 <p><第1学年のアンケート結果></p>	
	<p>① 自分の考えをもつことができた</p>  <p>アンケートは5段階 N=25人</p>	<p>② 自分が感じたことや考えたことを相手に伝えられた</p>  <p>アンケートは5段階 N=25人</p>

A 援助希求的態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の感想 <ul style="list-style-type: none"> ・人によって価値観や感じ方には、大きな違いがあると思いました。たくさんの意見を聞くことができて良かったです。今後活かせるようにしたいです。 ・授業を通して、これから人と接する時に気を付けなければいけないことを改めて理解しました。他人のことを考えた行動を大事にしたいです。そして助けてあげることができるような人になりたいと思いました。
-----------------	--

実施状況（主な実施内容、アセスメントツール等による生徒の変容、生徒の感想等）

C ストレス対処能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実践の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・道徳科において、第1学年は「自己効力感」を高めるための考え方に関する授業、第2・3学年は「スルースキル」について、事例を基に、異学年でグループを編制し、意見を交流した。 ○ 生徒の変容を促す工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒がストレス対処能力について理解を深められるよう動画を提示した。 ・自分自身の気持ちを客観的に見られるようロールプレイを行った。 ・異学年グループでの活動を通して、立場の異なる他者と協働させ、意見の相違から自己認識を深めるようにした。 ○ 生徒の変容 <ul style="list-style-type: none"> ・自身の気持ちや考えについてメタ認知ができるようになり、否定的な思考をしていることがあることに気付くようになった。 ・これまでの行動が、自分自身に負担をかけていたことを認識し、必要に応じて、スルースキルを活用するなどの意識が高まった。 <p><第2学年のアンケート結果></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%;"> <p>① 色々な視点（角度）から考えることができた</p> <table border="1"> <tr><th>Category</th><th>Count</th></tr> <tr><td>とてもよくできた</td><td>23</td></tr> <tr><td>よくできた</td><td>4</td></tr> <tr><td>あまりできなかった</td><td>1</td></tr> </table> <p>アンケートは5段階 N=25人</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>② 自分のこととして考えることができた</p> <table border="1"> <tr><th>Category</th><th>Count</th></tr> <tr><td>とてもよくできた</td><td>22</td></tr> <tr><td>よくできた</td><td>2</td></tr> <tr><td>できなかった</td><td>1</td></tr> </table> <p>アンケートは5段階 N=25人</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の感想 <ul style="list-style-type: none"> ・「スルースキル」という言葉を初めて知り、自分の足りない所が分かったので、勉強になりました。 ・他者を認め、否定するのではなく、意見を聞いた上で自分の考えを言うことが大事だと思いました。「おれがおれが」では、ケンカになるので、直したい。 ・人の気持ちを理解することは難しい。だけど、理解しようとする気持ちが大事だと思いました。 	Category	Count	とてもよくできた	23	よくできた	4	あまりできなかった	1	Category	Count	とてもよくできた	22	よくできた	2	できなかった	1	
Category	Count																	
とてもよくできた	23																	
よくできた	4																	
あまりできなかった	1																	
Category	Count																	
とてもよくできた	22																	
よくできた	2																	
できなかった	1																	